

—目黒のサクラ再生実行計画—

「駒場野公園 サクラ再生実行計画」(概要版)

令和3年3月 目黒区



—内容—

| | |
|---------------------------|---|
| ■サクラ再生実行計画の考え方..... | 1 |
| ■概況..... | 1 |
| ■ニュースレターの発行と現地調査会の開催..... | 2 |
| ■桜の樹木診断結果..... | 2 |
| ■桜の土壌基盤調査結果..... | 2 |
| ■現状の問題点の整理..... | 3 |
| ■駒場野公園の桜の植栽計画..... | 4 |
| ■公園の桜の将来像..... | 5 |
| ■維持管理計画..... | 7 |
| ■協働作業の考え方と役割分担..... | 7 |

■ サクラ再生実行計画の考え方

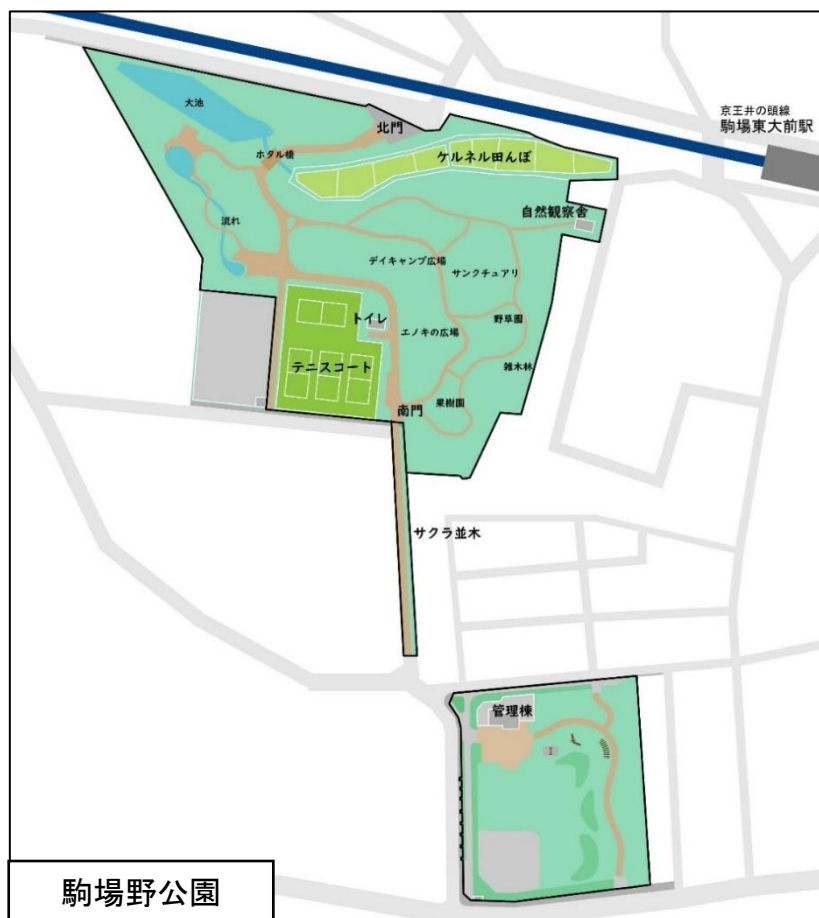
桜は日本を代表する花として広く親しまれているが、桜の老齢化や生育環境の変化から樹勢が低下し、倒木や枝折れが懸念されている。

園内にある桜について現状の課題を整理し、桜景観の将来像や保全策について住民と協働で検討を行い、中長期的な視点に立ってサクラ再生実行計画を作成する。

■ 概況

駒場野公園は、旧駒場農学校跡地に武蔵野の豊かな自然と親しむ場として昭和61年3月31日開園した。さらに、平成20年1月20日に多目的広場を含む拡張部を南側に併設した。約3.9haの広さを誇る里山の環境が残る公園では、地域住民が様々な活動を行い、自然と共生するまちづくりの拠点となっている。また、桜は約60本あり、約20種類の品種が園内各所に植えられ、春と秋の長期間桜の花を楽しむことが公園のアピールポイントにもなっている。

しかし、公園の開園から約30年が経過し、園内の桜は老齢化や周囲の樹林の成長や環境変化、公園利用の増加により衰えが目立つ木が増え、伐採や更新が必要になってきている。



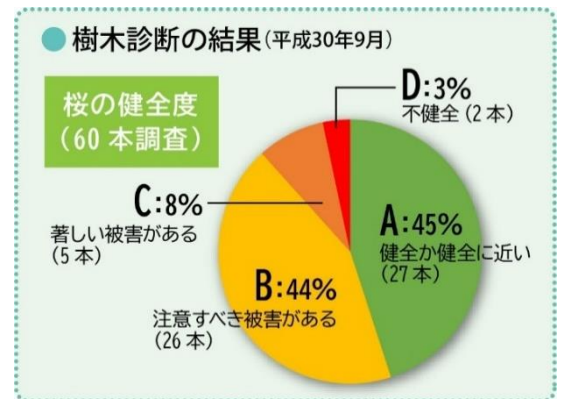
■ ニュースレターの発行と現地調査会の開催

令和2年9月から12月にかけて「目黒のサクラ再生実行計画 駒場野公園ニュースレター」を3回発行、「駒場野公園現地調査会」を1回開催し、意見募集を行い、住民意見を交えて桜の将来像について検討した。

| 発行・開催 | 名称 | 内容 |
|------------|------------|---|
| 令和2年9月 | ニュースレター第1号 | ・駒場野公園の桜の現状と課題、樹木診断と土壌調査結果報告、現地調査会案内 |
| 令和2年10月24日 | 現地調査会 | ・桜が抱えている問題、人の利用が多い公園に特有の課題、改善策についての紹介 ・区民からの公園の桜へ想いや将来への要望、桜についてのアンケート |
| 令和2年11月 | ニュースレター第2号 | ・現地調査会開催報告、アンケート結果と意見紹介、桜景観の再生方針提示 |
| 令和2年12月 | ニュースレター第3号 | ・駒場野公園サクラ再生実行計画（案）提示 |

■ 桜の樹木診断結果

桜の診断は、平成30年9月に幹周90cm以上の大きなもの60本を対象に行われている。うち健全度の判定がA（健全か健全に近い）27本、B（注意すべき被害がある）26本、C（著しい被害がある）5本、D（不健全・枯死）2本で、9割がA・B判定である。

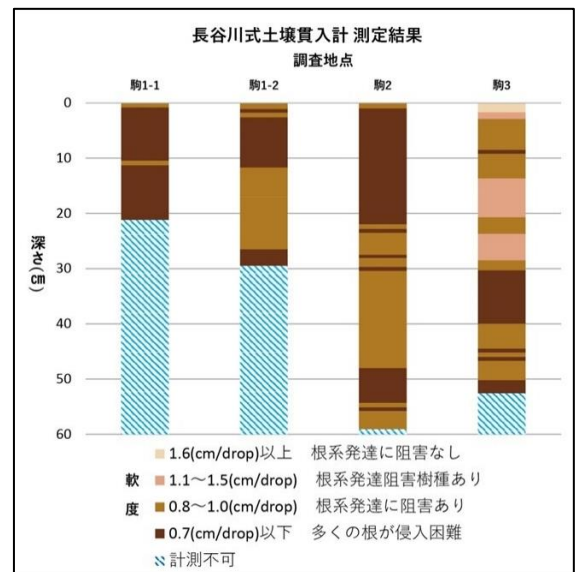


■ 桜の土壌基盤調査結果

樹木の生育不良が土壌に起因すると類推できる園路広場エリアの代表的な地点について3か所を選定し、土の性質と桜が根を張る範囲の土壌の硬さを確認した。

園路広場付近の桜の土壌は、表層が砂質系で乾燥しやすく硬く固結しやすい土性であった。地表から10cm辺りに細根が出てくるが、量は少なく、深さ20cmまで間に根の発達が困難な硬さの土層ができていた。

高木の根は深さ60cmから1mまでの間に大部分が広がり、地上部を支え、水や養分を吸い上げる。しかし、駒場野公園の拡張部と広場では根の進入と発達が困難な硬さの土層が、表層直下から始まっており、根元に近い表層位置に細根が集まって深い位置に根が広がっていけないことが判った。園路広場沿い植栽地は人の踏



圧により締め固まってしまう、地表の裸地化や桜他高木類の根の隆起と衰退を招いていると考えられた。

■ 現状の問題点の整理

| 問題点 | 状況 | 原因 | |
|-----------------|---|--|---|
| 樹勢不良・枯死 |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・日照不足 ・樹林地での樹冠の競合 |
| 樹勢不良・衰退 |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・踏圧による土壌の固結 ・踏圧による根の傷み ・西日による幹の日焼け |
| 樹形の不良 (景観不良) |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・支障部位や腐朽部の大枝切り戻しによる樹形崩壊 ・強風による幹の傾斜 ・日照の偏りによる樹冠の生育不良 |
| 樹冠の枯れ枝 |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・根の水分不足、・日照不足 ・樹冠の接触による病害伝搬 |
| 樹皮欠損 ・幹の空洞 |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・腐朽菌による木部の侵食 ・剪定痕の巻き込み不良、枯れ下がり(樹勢不良による拡大) |
| 害虫被害や 腐朽菌被害 |  |  | <ul style="list-style-type: none"> ・狭い植え込み空間、密植(樹冠の接触、根の接触で容易になる病虫害伝搬) ・樹勢不良による植物自身の防御機能の衰退 |

■ 駒場野公園の桜の植栽計画

● 植栽品種の選定

駒場野公園では新しい桜景観を創り出すのではなく、過去から現在まで続いてきた桜景観を健全に復活させることを基本方針とする。ただし、現状の植栽品種が環境に適応できないものについてのみ、類似の品種に順次入れ替えていく。

● 植栽基盤の改善

- ・ 植え替える場合は、枯損木の根株を取り除き、深さ 1m 程度まで耕耘し殺菌処理を行う。もしくは、土を入れ替える。
- ・ 園内で作った落ち葉堆肥を活用し、土壌改良を行う。
- ・ 表層が固い場所では、根回り周囲の土を柔らかくするためエアレーションを行う。

● 根の育成領域の確保

- ・ 人の利用と桜の根の保護を両立させるため、可動式の進入防止柵の設置を検討する。
- ・ 桜を新植する際は、8m 以上の間隔をとる。

● 樹勢回復

- ・ 倒木のリスクを抱えた桜は、徐々に樹高低減を行い、重心を下げる。
- ・ 下枝やひこばえに日照と雨が当たるよう剪定を行う。
- ・ 周囲 3-4m 範囲にロープ柵や可動式の柵を設置して、人の踏込みを予防する。

■ 公園の桜の将来像

現在植栽されている桜を適切に維持管理していき、倒木などの危険が生じた桜については植替えを進めていく。また、公園内のそれぞれのエリアの桜の印象は今後なるべく変えず、枯損衰退した桜をいかに復活させるかを焦点に駒場野公園の桜の将来像を検討した。

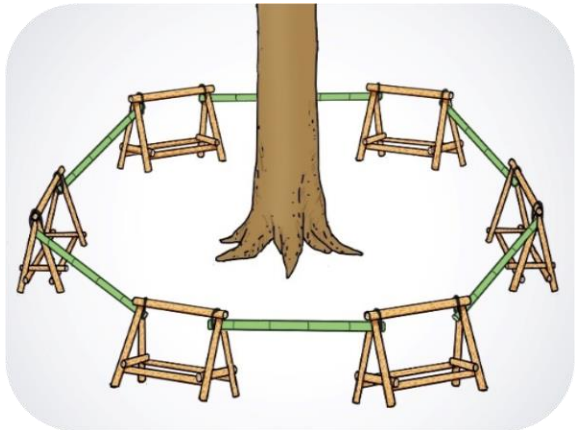
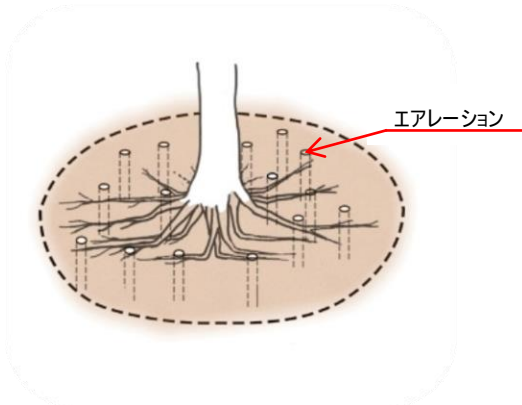


①コヒガン・ソメイヨシノ並木エリア
公園のエントランスとして思い出の桜並木(コヒガン、ソメイヨシノ)を復活させる。

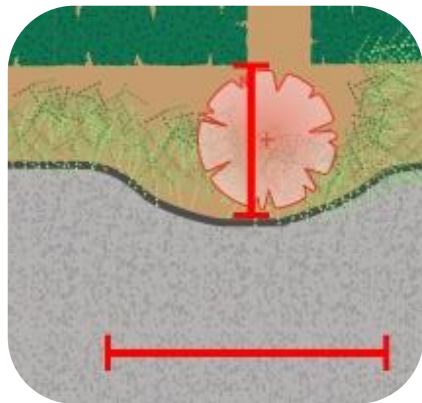
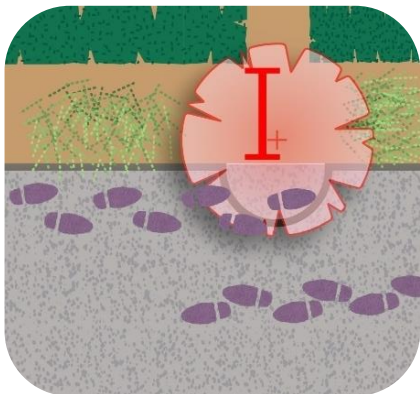


②広場(低木～亜高木)エリア
 二季咲きのジュウガツザクラを復活させ、
 秋にも桜を楽しめるようにする

③広場(高木)エリア
 人の利用と高木の桜の保護を両立させるため、可動式の侵入防止柵の配置を検討する。
 踏圧による土壌の団結と根の生育不良を改善するため、根回り周囲に土を柔らかくする土
 壌改良(エアレーション等)や根の発育を促す施肥を行う。



④八重桜並木エリア
 現在の「カンザン」に似た小型の品種「コウカ」で八重桜並木を維持する。



■ 維持管理計画

●既存樹の基本的な維持管理

- ・樹勢を衰退させない剪定、腐朽予防対策
- ・枯枝、支障枝の早期切り戻し
- ・エアレーションと土壌改良（根を傷つけないよう注意）
- ・冬季、夏季の乾燥期の灌水
- ・発生している病害（腐朽、樹皮欠損、樹幹の揺れ・傾斜）の定期確認
- ・新たな虫害や病害の兆候確認

●新植樹の基本的な維持管理

- ・強風時の枝折れや支障枝の迅速な切り戻しと腐朽予防対策
- ・成長後の大きさをコントロールするための整枝剪定
- ・定期的な点検、早期の異常発見と対処
- ・冬季夏季の異常乾燥時にこまめな人為灌水
- ・根張りが確保されるまでの支柱の更新と不要時の即時撤去
- ・春から秋、根回り 50cm 保護域の除草（穿孔害虫予防、異常の早期発見）

■ 協働作業の考え方と役割分担

●日常的な点検、観察作業

見守り対象として日常的に公園の桜を観察し、ささやかな気づきを記録する。これにより、病虫害トラブルの早期発見につながり、施肥や灌水、害虫駆除などを適切な時期や必要な場所から行うことができる。

●土壌改良と根回り保護

表層土のエアレーションや落ち葉堆肥を施す土壌改良を行い、園内発生材を組み合わせた侵入防止柵や縁を作成、設置することで桜の寿命を延ばすことができる。

●維持管理作業

桜は樹木のため、働きかけの反応に時間がかかる。しかし植物の維持管理作業（清掃や灌水、施肥）の一環を生活の楽しみのサイクルに取り入れるとより良い維持管理に繋がり、駒場野公園の景観を向上させることができる。

●次世代の苗木の作成

桜の保護活動の一環として、現在ある桜の次世代を残すことは、地域の財産として、地域に愛される桜の風景を後世へ伝えることにつながる。また、より多くの人々に桜への関心、親しみを持ってもらえることができる。

●駒場野公園桜の PR 活動

園内の桜の PR 活動として、桜の観察会や維持管理作業の講習会の開催、桜の品種や生育記録の情報の発信などを行うことにより、世代を超えた桜守同志を増やすことにつながる。